

「ブルーハウス検証」

—2 稿—

2026/1/13

雨森 れに

〈人物表〉

鹿野 かの
友未 ともみ

(22) 収益化を目指す配信者

鹿野 かの
優 ゆう

(18) 友未のいとこ。友未と配信している

1. 山（夜）

山の奥深く。強く風が吹く。
木々の音に混ざる、微かな女の泣き声。
鹿野友未（22）の叫び声。続いて車のドアが閉まる音。

2.

ブルーハウス・外（夜）

山の中にある、5畳ほどのプレハブ小屋・通称ブルーハウスの前。残置物のある廃墟であり、心霊スポットとして有名な場所である。
小屋から少し離れた位置に軽自動車が停車中。
車内には友未と鹿野優（18）がいる。

3.

車・車内（夜）

友未、助手席で小さくなっている。
友未 「だから、嫌だったのに」

優がダッシュボードを指さす。そこには友未のスマホが投げたのである。

優 「手っ取り早く収益化するなら心霊スポットって言った」

友未の足が貧乏ゆすりを始める。

友未 「でもガチなところ行くのは違うじゃん」

優 「何もおかしくないと思うけど」

友未 「ホント、お前の思いやりがないとこ、無理だわ」

友未の貧乏ゆすりが激しくなる。

優 「もう帰る？」

友未、足元を見る。鞆の中からボロボロの財布が覗いている。
視線をスマホに移し、次に優を睨む。

友未 「やる」

4.

（配信画面）山・ブルーハウス・外（夜）

視聴者数、1K（時間経過とともにあがっていく）
車のライトと懐中電灯の光が周囲を照らす。
友未の声「2回目の挑戦です。女の幽霊が出るって話だったじ

やん？ さっきの泣き声、それっぽいよね」

小屋の前に到着する。

友未の声「入るの怖あ」

窓に近づく。破けた青いカーテンがかかっている。

カーテンの隙間から室内を伺う。

生活感のある残置物に加え、おびただしい量のぬいぐるみが積み上がっている。そこにある、ひときわ

大きい影に気がつき――

優 「入んないの」

友未の声「いきなり声かけんな！」

優 「目的はこの中を撮ることでしょ」

優、扉に近づき、開ける。

突風。木々の揺れる音。女の泣き声。

友未の声「ひっ」

友未がへたりこんだため、視界が低くなる。

優の足が室内へ入っていく。

友未の声「待ってよ！」

もう一度、強く風が吹く。

5.

ブルーハウス・外（夜）

風で揺れる茂み。

友未は片耳を押さえ、泣きそうな顔。

スマホ画面を見て、よろよろと立ち上がる。

そのまま室内へ。

6.

（配信画面）ブルーハウス・室内（夜）

友未の声「ユウ！」

優が室内を観察している。

剥げかけたペンキの壁。毛布やクッション。少しの食器。残置物すべてが青色である。

ぬいぐるみも青系統のもので、目がえぐり取られて
いる。

優、床に置いてあるガラス瓶を持ち上げる。えぐり
取られた目のパーツがぎつしりと入っている。

友未の声「何してんの……」

優 「現場検証」

優、室内を探り始める。

友未のため息。

友未の声「ブルーハウスの中だよ。不気味すぎない？」

室内をゆっくりと映していく。

まず開け離れたままの扉。車のライトがこちらを照

らしている。

次に窓。そのままぬいぐるみの山。

炊事スペースと思われる空間。

床に足の踏み場がほぼない。

友未の声「毛布とかクッション？ 枕？ はあるけど、どこで寝
てたんだろね」

優、ぬいぐるみのひとつを持ち上げる。

優 「こいつらの上じゃない？ きつと目が当たって痛かった
んだよ」

友未の声「だから取ったってことかあ」

優 「トモちゃん、これ」

優がぬいぐるみの置いてあった空間を指さす。

小さい白磁の壺が埋まっている。

友未の声「ちよっと待って。これ骨壺じゃん」

優の手が蓋にのびる。

友未がそれを払う。

友未の声「こういうの触るのは、だめでしょ。例の幽霊のペット
とか：子供のとかかもだし……」

沈黙が流れる。

窓ががたがたと揺れる。

女の泣き声がはっきりと響く。

周囲を映すが、声の主はいない。

優、ゆっくりと立ち上がる。

壁や天井を懐中電灯で照らす。

優 「あそこだ」

優が壁の上部を照らしている。

通気口があり、錆びたトタンで塞がれている。

再度、風が吹く。トタンが少し浮かび、通気口から泣き声。

7. ブルーハウス・裏・外（夜）

通気口の裏側付近。

優、空き箱を重ねた上に乗っている。

通気口の外枠に力を入れ、外す。

友未、外枠を映しながら、

友未 「錆びやバいね。中はどんな？」

優 「中もボロボロだね。たぶん、笛みたいな原理で泣き声に

聞こえたんだろうね」

友未 「みんな、聞いた？ 今まで凸してきた人たちは何やって

たんでしょうね」

友未、得意げに歩き始める。

友未 「私たちが検証すれば真実がわかるっていう配信。興味あるでしょ？」

友未の顔にボロ布が当たる。

友未 「うえ。なんだこれ（布を掴んで）こういうのがネットで

一反木綿とか言われててき。馬鹿みたいだよな」

布を離す。

友未 「私たちが暴いてやんよって話」

友未、ブルーハウスの周りを歩き続ける。

ボロ布が静かに揺れている。

8. 車・車内（夜）

友未、配信の終わったスマホをしまう。

満足げな笑みを浮かべる。

友未 「最終20万人。ギフトもたっぷり」

優 「トモちゃん怖がってただけじゃん」

友未 「ばか。こういうのは怖がったほうがいいんだって」

優 「それで、これからやるの？」

友未 「文脈考えろや。やるでしょ。ほら、さっさと車動かす」

優、仕方ないという様子で発進する。

× × ×

窓の外は、空が白み始めている。

友未 「そういえばさ。窓から覗いた時、ぬいぐるみにしちや大
きい影あったんだよね。なんだったんだろ」

優 「窓から見て？ そんなのなかったよ」

友未 「ちようど骨壺があったあたり——」

友未が口に手を当てる。

9. ブルーハウス・室内（昼）

友未の想像。

女が、ぬいぐるみの山をソファアーのようにして座っ
ている。手は埋まった骨壺を撫でる。

10. 車・車内（早朝）

友未、考え込むようにして動かない。

優 「戻って検証したほうがいい？」

友未、首を振る。

友未 「深入りしすぎ」

優 「思いやったんだけど」

友未 「適切なタイミングってのがあんのよ。疲れた。寝る」

友未は目を閉じる。

11. ブルーハウス・裏・外（早朝）

枝にかかったボロ布が揺れる。

布の先を辿っていくと、数メートル上の枝で骸骨が
揺れている。布は色あせたワンピースがほどけたも
のである。

強い風が吹く。

骸骨が揺れ、女のすすり泣きが響く。

おわり